

令和3年度執行事務事業

施策名	基本事業	番号	事務事業名
歴史・文化資源の 継承と保存	歴史・文化資源の理解の促進と地域	1	田中正造旧宅一般公開支援事業
		2	田中正造関係資料購入事業
		3	郷土博物館維持管理事業
		4	郷土博物館運営事業
		5	郷土博物館協議会運営事業
		6	郷土博物館企画展等開設事業
		7	郷土博物館講座等開設事業
		8	郷土博物館学校利用推進事業
		9	日本博物館協会参画事業
		10	栃木県博物館協会参画事業
		11	郷土資料保存三好館維持管理事業
		12	郷土資料保存三好館運営事業
		13	田中正造未公開書簡編纂事業
		14	葛生化石館維持管理事業
		15	葛生化石館運営事業
		16	葛生化石館企画展等開設事業
		17	葛生化石館講座等開設事業
		18	葛生伝承館維持管理事業
		19	葛生伝承館運営事業
		20	葛生伝承館企画展等開設事業
		21	葛生伝承館講座等開設事業

事務事業名		田中正造旧宅一般公開支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	文化財保護係	担当課長名	船渡川 貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14908	一般	10	4	5	田中正造旧宅一般公開支援事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H5年度～ 年度			根拠法令 条例等	文化財保護法、栃木県文化財保護条例、佐野市文化財保護条例、佐野市田中正造旧宅管理運営補助金交付要綱、佐野市田中正造旧宅入場料補助金交付要綱		実施方法		直営
							事業分類		支援事業		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
							市長市政公約		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
佐野市小中町にある田中正造旧宅(栃木県指定史跡)の適切な保存と一般公開を図り、佐野市が誇る歴史的人物である田中正造翁の偉業を市内外に広く伝えるため、旧宅の維持管理及び一般公開を行っている(一財)小中農教倶楽部に対して補助金を交付する他、説明ボランティア団体育成のための支援を行う。		(市の活動) (一財)小中農教倶楽部への管理運営費補助金及び入場料補助金の交付事務、県指定文化財「田中正造旧宅」の維持管理、現状変更等に関する指導及び助言、県との連絡調整。 (一般財団法人小中農教倶楽部の活動) 年2回の役員会、年1回の田中正造翁、カツ子夫人法要の実施(中止)、田中正造旧宅の一般公開、田中正造旧宅の維持管理						
活動指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
田中正造旧宅開館日数		日	210	212	211	143	174	
説明ボランティアの活動人数		人	309	285	232	150	147	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
①(一財)小中農教倶楽部		田中正造旧宅年間入場数		2,320	1,807	1,347	1,005	612
②田中正造旧宅見学者		無料入場者数		1,446	978	741	173	208
③旧宅説明ボランティア団体		説明ボランティア人数		26	24	22	18	14
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
田中正造翁の偉業を認識してもらい、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えるため、田中正造旧宅一般公開事業の円滑な運営と財政の健全化、及び説明ボランティア団体の養成を支援する。		年間入場者数/前年度入場者数	%	116.7	77.9	74.5	74.6	60.9
		年間入場者数/H9～17平均入場者数(2665.4人)	%	87	67.8	50.5	37.7	23
		説明ボランティア団体視察研修回数	回	1	1	0	0	0.0
④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育ててもらおう。		佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	1,269	1,295	1,163	931	741	
	事業費計(A)	千円	1,269	1,295	1,163	931	741	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金、補助金及び交付金	1,264	負担金、補助金及び交付金	1,295	負担金、補助金及び交付金	1,163
			消耗品	5				
人件費	人	2	2	2	2	2		
のべ業務時間	時間	400	400	400	400	400		
人件費計(B)	千円	1,526	1,528	1,526	1,455	1,454		
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,795	2,823	2,689	2,386	2,195		

B表(事後評価シート)

事務事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	文化財保護係
-------	----------------	-----	-----	-----	------	-----	--------

## (3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成5年に県指定史跡「田中正造旧宅」の保存整備事業が完了し、田中正造生家保存整備調査研究委員会の「田中正造旧宅保存整備に関する最終答申書」などに基づき、同年11月から一般公開事業が始まった。公開事業を行うに際しては、所有者である(一財)小中農教倶楽部の管理運営費の負担が多いため、佐野市が補助金を支出し支援することになった。また、見学者の理解の促進を図るため、説明ボランティアを養成し、旧宅公開に際する人的支援策も講じて行くこととした。その後、平成17年度からは、入場料無料化枠(高校生・障がい者・高齢者)の拡大部分に対してその拡大による減収の2分の1を助成している。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成5年から内規に基づき補助金を交付していたが、平成17年に「田中正造旧宅入場料交付金交付要綱」「田中正造旧宅管理運営費補助金交付要綱」を定め、それらに基づき交付している。(一財)小中農教倶楽部は収入が補助金と入場料しかなく、不足分を財団の流動財産を取り崩すことによって補い、公開事業を行っている。そのため、今後佐野市として何らかの対応が必要であり、要綱の改正を含めた対応が必要になると考える。また、(一財)小中農教倶楽部は、平成26年4月1日付で財団法人から一般財団法人へ移行した。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	田中正造旧宅の運営に関しては、入場料の収入だけでは賄えない部分が大いため、旧宅の公開事業で田中正造翁の業績を後世に伝えてゆくためには、今後も継続的な支援としての補助が必要であるとの意見を(一財)小中農教倶楽部より伺っている。

## (4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	田中正造旧宅を広く市内外へ向けて発信するために、佐野市ホームページなど広報手段を活用した。また、補助金の交付のための書類とその期限などを整理し、コロナ禍による入場者減の状況下においても適切な執行ができるよう努めた。
現状維持	

## 2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	地域の歴史・文化の理解の推進に結びつくと考え、小中農教倶楽部による田中正造旧宅の公開事業への補助金支出による財政的支援は、事業の財政面での健全な運営に寄与しており、また、ボランティア養成講座への支援を通じて、新規ボランティアの養成や資質向上も達成されている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	「田中正造旧宅」の保存と一般公開は、文化財の保存・活用という点で市が努めるべきこととして法令で謳われている。また、一方では、佐野市を代表する歴史的人物である田中正造の偉業を知らしめ、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えることは、本来市として取り組むべき事業である。そのため(一財)小中農教倶楽部に対して補助を行うことは、妥当であると考えられる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	田中正造翁の偉業を知らしめ、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えるために、旧宅一般公開事業は必要であり、その支援は妥当である。また、見学者が正造翁やその旧宅についての理解を深めるため、説明ボランティアとして活動している団体の育成について、支援を行うことは、市民との協働を促進する上でも妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	田中正造旧宅に関して、市民の関心等の意識を高め、また、事業をより健全に運営できる様つなげていく上では、市のHPや広報誌を活用することによって、低コストで効果的な宣伝を実施できる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費については、入場者数に大きな変化がなく、多くの人たちに見学してもらうためには、入場料の値上げも難しい。入場料の大幅な増は見込めないため、削減の余地はない。 人件費については、正造旧宅の一般公開を円滑に円滑にするための補助金の交付事務が主であるため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	受益者は田中正造旧宅の入場者と(一財)小中農教倶楽部である。 受益者負担について、入場料を徴収しているが、運営が厳しいため、やむを得ないものと考えられる。本来、文化財の維持管理は所有者が行うべきものであり、田中正造翁の業績を伝え、後世に残すという目的のため一般公開を実施し、これに支援を行っているものであるから、現状の受益者負担は適正であると考えられる。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	(一財)小中農教倶楽部の財政状況が、市からの補助金の交付無しで田中正造旧宅を円滑に運営出来る状態になった場合、この事業は終了と考えられる。		

## 3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策	
事業のやり方改善(成果向上の見直し) : 現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	(一財)小中農教倶楽部に対し、運営上の工夫や改善を提案するうえで、歳出削減には限度があることから、入場者増加に結び付くような提案をする必要がある。また、市内には正造翁関連の史跡等もあるため、それらとの回遊ルートなども考える。	
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト		
(一財)小中農教倶楽部が田中正造旧宅を円滑に運営出来るように補助金の交付事務など積極的に取り組んでいく。その一方で入場者数増加や歳出削減に繋がるような運営上の工夫や改善を(一財)小中農教倶楽部に提案していく。新型コロナウイルスの影響により休館や時短の対応が増えているため、感染症対策を入念に行い市民が安心して来場できるよう取り組む。	削減 維持 増加		
	向上	○	
	維持		×
	低下	×	×

事務事業名		田中正造関係資料購入事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14864	一般	10	4	4	田中正造関係資料購入事業				
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H25年度～H34年度		根拠法令 条例等					
					事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
							任意的事業・義務的事業		任意的事業	
						実施方法		直営		
						事業分類		その他内部事務事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
田中正造翁没後百年顕彰事業の一環として、田中正造の行動と思想を後世に伝えるため、没後百年となる平成25年度から当面の間(10年間)、葉書、書幅等正造資料を継続的に購入し、正造翁の偉業を顕彰する。	○田中正造関係書簡等の購入					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
購入資料数	点	0	2	2	0	0
寄贈資料数	点	0	2	85	3	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

正造関係博物館収蔵資料	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	正造関係博物館収蔵資料	点	14,197	14,202	14,289	14,292	14,292

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 正造ゆかりの博物館として、正造関係資料を継続的に購入し、博物館収蔵資料数の拡充を図る。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	正造関係収蔵資料数/収蔵資料数	%	37.4	37.3	37.0	36.4	36.4

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	0		108		132		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		108		132		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			庁用器具費	0	庁用器具費	108	庁用器具費	132	庁用器具費	0	庁用器具費	0
	人件費	人	2		2		2		0		0	
のべ業務時間	時間	30		30		30		0		0		
人件費計(B)	千円	114		115		114		0		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	114		223		246		0		0		

事務事業名	田中正造関係資料購入事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館は、昭和58年11月に開館し、正造関係資料については約14,000点程収蔵しているが、近年、財政的な理由から正造関係資料を購入できない状況となっていた。そのため、田中正造翁没後百年となる平成25年から顕彰事業の一環として、継続的に購入するように、平成24年2月に田中正造翁没後百年顕彰事業庁内推進委員会において承認された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	東日本大震災等による原発問題や環境問題への関心が高まっているとともに、没後百年を契機として、正造翁の偉業を顕彰する重要性が深まってきている。美術品や正造関係資料については、景気の低迷に伴い、以前と比べて比較的安価な値段で市場に出回っているため、購入しやすい状況にある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	一般市民等から、正造資料を博物館で購入して欲しいとの話が時々ある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	郷土の偉人である田中正造の資料を購入することができれば、地域の歴史に触れることが増え、市内外の人々に佐野市の歴史を知ってもらうとともに、市民の郷土への誇りと愛着心を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体に委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	正造翁の偉業を永く後世に伝えるために、正造ゆかりの博物館として、正造関係資料を積極的に購入することは、博物館の責務であり、NPOや市民団体に委ねることはできない。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	郷土博物館は、田中正造ゆかりの博物館として従来から正造の顕彰を図っており、没後百年を契機として田中正造の貴重な資料を購入し、後世に伝え、地域に誇りと愛着を持つ人々を育成することは、博物館の重要な役割である。対象と意図は妥当である。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	日頃から情報収集に努め、田中正造関係資料が市場に出まわっていないかを確認し、資料購入を迅速に行うことで、より多くの資料を収集することができる。
効率性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	必要最低限の資料購入費のみのため、事業費を削減することはできない。人件費も同様である。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	郷土博物館で購入する資料であるため、受益者負担を求めることはできない。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	顕彰事業の目的である「正造翁の偉業を広め、永く後世に伝える」ためには、継続的に資料収集を行うことが必要であるため、10年という一定期間の購入計画を立てている。正造関係の資料は、市場に出回っているためすぐに事業終了となることは考えられない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土博物館維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史		
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	14810	一般	10	4	4	郷土博物館維持管理事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例							
						実施方法	直営						
						事業分類	施設維持管理事業(市主体)						
						リーディングプロジェクト	該当なし						
						市長市政公約							

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
郷土博物館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に博物館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。 ・施設・設備の維持管理に係る消耗品等購入 ・施設の修繕 ・借用資料及び建物の損害保険への加入 ・収蔵庫及び展示室のくん蒸業務の実施 ・空調機器、給排水設備等の保守点検、館内清掃業務、施設警備業務の委託等 ・老朽化等による施設の工事	・施設の維持管理に係る照明器具等の消耗品の購入 ・常設展借用資料に対する賠償責任保険、火災保険等へ加入 ・収蔵庫のくん蒸業務委託。(7/7~7/10) ・空調機器、給排水設備、消防設備等の保守点検及び館内清掃・警備業務の委託(年間)					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
業務等委託件数	件	10	11	11	11	11
修繕件数	件	8	6	5	4	5
収集資料数	点	37,930	38,067	38,984	39,213	39,239

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

施設・設備 市民及び市外からの入館者 収蔵資料	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	敷地面積	m	7,470	7,470	7,470	7,470	7,470
	入館者数	人	22,362	20,387	16,314	9,644	7,785
	収蔵資料数	点	37,930	38,067	38,984	39,213	39,239

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

① 建物・機械設備等を維持・管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を保つ。 ② 利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	適切に収蔵されている資料数/収蔵資料数	%	100	100	100	100	100
	入館者/市民人口	%	18.6	17.1	13.8	8.2	6.7

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	338		262		127		39		305	
	一般財源	千円	14,215		9,667		7,830		6,576		7,342	
	事業費計(A)	千円	14,553		9,929		7,957		6,615		7,647	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	3,998	需用費	2,454	需用費	2,444	需用費	1,957	報酬	195
			役務費	206	役務費	190	役務費	148	役務費	180	旅費	9
			委託料	3,988	委託料	3,581	委託料	3,735	委託料	4,328	需用費	2,232
			使用料及び賃借料	93	使用料及び賃借料	102	使用料及び賃借料	103	使用料及び賃借料	104	役務費	147
			工事請負費	6,268	工事請負費	3,564	工事請負費	1,527	負担金、補助及び交付金	8	委託料	4,161
					公課費	38			公課費	38	使用料及び賃借料	103
											備品購入費	800
人件費	人	4		4		4		3		3		
のべ業務時間	時間	1,440		1,440		1,440		1,440		1,440		
人件費計(B)	千円	5,495		5,502		5,494		5,237		5,236		
トータルコスト(A)+(B)	千円	20,048		15,431		13,451		11,852		12,883		

事務事業名	郷土博物館維持管理事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年11月の郷土博物館の開館に伴い、利用者が安全で快適に施設を利用できるように、施設や設備を維持・管理して、展示室や収蔵施設の最適環境を保つために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	昭和40年代から全国で多くの博物館や美術館が建設されたが、現在それらの施設の老朽化が進んでいる。当館も開館してから32年が経過し、施設の修繕箇所も増えている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に博物館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図ることは、市民の学術・文化水準の向上や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 博物館を維持・管理する(地方自治法の掲げる事業)ことで、学術・調査活動の拠点施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割を持つので、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)に適用ものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 展示室や収蔵施設の最適環境を保ち、利用者に快適で安全な環境を提供することは、教育文化施設として当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 施設の修繕や改修について、継続的な改修計画を立てて、施設の延命化を図る必要がある。そのため収蔵庫用除湿機等の修繕が必要である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 施設・設備の管理業務のうち清掃業務・警備業務の委託は、指名競争入札による長期継続契約を結んでおり、また光熱水費や他の経費も削減に努めているため、事業費のこれ以上の削減の余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 博物館法では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。」と規定している。当館は、現在、常設展のみの場合は無料であるが、企画展開催時だけ有料となっている。入館者は市内外にわたっており、受益者に必要な対価を求めることは妥当であり、他の博物館と比べても負担額は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	博物館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)  																									

事務事業名		郷土博物館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史		
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業			継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業			一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	14843	一般	10	4	4	郷土博物館運営事業						
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例		事業区分			市単独事業・国県補助事業	市単独事業
								任意の事業・義務の事業			任意の事業	
								実施方法			直営	
								事業分類			施設維持管理事業(市主体)	
								リーディングプロジェクト			該当なし	
								市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
博物館を運営していくための事業で、入館者の受付、団体見学者の案内、収蔵資料の閲覧や文献資料複写の支援、入館料及び図録等売代金の徴収、広報誌等へのPR、交流諸施設から送付される刊行物(寄贈図書)の整理、寄贈資料の受入れ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中正造生誕180年、直訴120年記念クリアファイル作成</li> <li>・資料閲覧・撮影・複写等のサービス</li> <li>・寄贈図書の整理</li> <li>・寄贈資料の受入れ</li> </ul>					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
資料閲覧・撮影・複写	件	50	38	31	48	65
広報紙等掲載回数	回	12	12	12	12	12
図書整理冊数	冊	15,486	15,757	15,868	14,669	14,977

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

入館者 市民 図書	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	入館者数	人	22,362	20,387	16,314	9,644	7,785
	市民人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
	収蔵図書数	部	15,486	15,757	15,868	14,669	14,977

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	①見学者の利便を図り、利用者の研究を支援する。 ②博物館相互の連携による研究資料の蓄積を図る。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		資料閲覧・撮影・複写/入館者数	%	0.2	0.2	0.2	0.5	0.8
		広報紙掲載回数	回	12	12	12	12	12
		図書整理冊数/収蔵図書数	%	100	100	100	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)					
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	173	662	534	326	986					
	一般財源	千円	717	265	334	263	104					
	事業費計(A)	千円	890	927	868	589	1,090					
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費		
			報償金	10	報償物資費	17	報償金	130	報償金	108	報償金	120
			報償物資費	56	消耗品費	33	報償物資費	16	報償物資費	17	報償物資費	12
消耗品費			52	印刷製本費	108	印刷製本費	0	消耗品費	28	印刷製本費	110	
印刷製本費			162	通信運搬費	120	消耗品費	43	通信運搬費	112	消耗品費	54	
通信運搬費			131	業務委託料	500	通信運搬費	118	業務委託料	180	通信運搬費	109	
業務委託料			150	機械等借上料	149	業務委託料	414	機械等借上料	144	業務委託料	480	
機械等借上料			279	庁用器具費	0	機械等借上料	141	機械等借上料	0	機械等借上料	205	
庁用器具費			50			庁用器具費	6					
正規職員従事人数			人	4	4	4	3	3				
のべ業務時間	時間	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440						
人件費計(B)	千円	5,495	5,502	5,494	5,237	5,236						
トータルコスト(A)+(B)	千円	6,385	6,429	6,362	5,826	6,326						

事務事業名	郷土博物館運営事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-----------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年11月の郷土博物館の開館と同時に始まる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国や地方公共団体の財政の悪化等により、博物館等の弱体化が進んでいる。また、公立博物館において指定管理者制度が導入されるなど、博物館の運営形態が多様化している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持のより対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 市民や利用者の利便を図り、博物館・研究機関との連携を図ることは、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上(博物館法が目指す目的)や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 郷土の考古・歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・調査・研究及び展示して、教育的配慮のもとに市民一般の利用に供することは、当然市が行うべき事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 市民や利用者の利便を図り、博物館・研究機関との連携を図ることは、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上や博物館資料の蓄積につながる。対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 収蔵資料の検索が館内に設置されたパソコンで出来るようになり、収蔵資料の管理・閲覧システムが改善され、利用者に資料の提供が迅速に行えるようになった。今後も、寄贈資料などの新規収蔵資料のデータを順次追加していく必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 博物館を運営していく上で、必要最小限の事業費であり、削減余地はない。また、職員の数が少ない中で、平常業務の他に、教育・研究機関や個人研究者からの資料照会や閲覧要求等で、資料の検索や指導・助言に費やす時間も多く、人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 教育・研究機関や個人研究者からの博物館資料等の複写依頼などがあった場合に、必要な対価を求めることは妥当であるとする。負担額も紙代やコピー代など必要最低限の金額であり、適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	博物館が開館している間は、事業の休止・廃止は出来ない。博物館が閉館となった時に、事業は終了する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		郷土博物館協議会運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14844	一般	10	4	4	郷土博物館協議会運営事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例					
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		直営			
						事業分類		審議会・協議会等運営事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
郷土博物館の諮問機関として設置した協議会を開催して、市民各層の代表から、博物館運営に関して意見や要望を聞くことにより、利用者の視点に立った施設の運営や事業の展開を行う。協議会を年2回開催する。		○博物館協議会 (第1回)令和3年10月26日開催 8人出席 (第2回)令和4年 3月17日開催 5人出席						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		会議開催回数	回	2	2	0	2	2
		視察研修回数	回	0	0	0	0	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

郷土博物館協議会 郷土博物館協議会委員		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		郷土博物館協議会委員数	人	10	10	10	10	10

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

① 事業が円滑で効果的に実施できるように、郷土博物館の運営に関して委員から貴重な意見や助言を聴く。 ② 委員に他館を視察研修する機会を提供し、博物館運営に反映する。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		意見・助言数	件	10	20	0	17	19

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
		博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,407	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	107	76	0	107	84			
	事業費計(A)	千円	107	76	0	107	84			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費		
			委員報酬	107	委員報酬	76	委員報酬	0	委員報酬	107
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	2	2		
のべ業務時間		時間	120	120	120	60	60			
人件費計(B)		千円	458	459	458	218	218			
トータルコスト(A)+(B)		千円	565	535	458	325	302			

事務事業名	郷土博物館協議会運営事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、博物館の運営や事業に関する諮問機関として、博物館協議会を設置した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	税金で運営される国公立博物館は、納税者による監視を受け、納税者への説明責任を果たすため、利用者や市民が加わる運営参画会議が不可欠なものとされる。また、人数の制限はあるものの、会議が一般市民に公開され、協議会を傍聴できるようになった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	協議会委員から郷土博物館の運営・事業に関する意見を聴いて、館の運営やサービス向上に反映しているため、郷土の歴史・文化に関する事業の充実が図れる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	学校教育の関係者や社会教育関係団体の代表者として、母集団と意識を共有する委員の意見を聞くことは、館運営やサービス向上には必要不可欠である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	郷土博物館が博学連携や生涯学習の事業を進める上で、学校教育の関係者や社会教育関係団体の代表者から意見・助言を聴くことができるので、見直す必要はない。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	年2回の会議は最低限必要なものであると思われるが、事業全体を見直すなかで視察研修は平成29年度より廃止したので、これ以上の削減余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	年2回の会議は最低限必要なものであると思われるが、事業全体を見直すなかで視察研修は平成29年度より廃止したので、これ以上の削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない		理由・改善案	事業内容が博物館運営に関し意見も求めるものであるため、受益者負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 博物館が開館している間は、博物館協議会は必要である。博物館が閉館となったときに事業は終了する。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																			
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	○	×		低下	×	×	
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	○	×																		
	低下	×	×																		

事務事業名		郷土博物館企画展等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14848	一般	10	4	4	郷土博物館企画展等開設事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業			市単独事業			
	任意の事業・義務の事業		任意の事業			実施方法		直営			
事業分類		講座・教室・イベント等開催事業			リーディングプロジェクト		該当なし				
市長市政公約											

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
佐野市の考古・歴史・民俗等に関する特定のテーマを設け、期間を区切って借用資料等による企画展示を行うとともに、記念講演会等を開催する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>第73回企画展「朝日森天満宮一日光例幣使参拝の神社」(4/24～6/20、2,127名)</li> <li>第73回企画展記念講演会「関東水墨画と天神像」(5/15、40名)</li> <li>栃木県立博物館地域移動博物館「貝づくし!～美しい貝、美味しい貝、とちぎの貝～」(7/31～8/7、293名)</li> <li>移動講座「溶かしてピカピカ☆貝殻づくり」(8/11、一)(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)</li> <li>第74回企画展「中根東里展-「芳子」と門人たち-」(10/2～11/28、932名)※第70回企画展の再開</li> <li>第74回企画展記念講演会「中根東里と芳子と佐野と」(10/16、61名)</li> <li>収蔵資料展「くらしのうつりかわり～古い道具と昔のくらし～」(1/4～2/23、1,316人)</li> </ul>					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
企画展等開催延べ回数		回	6	9	5	4	6
企画展等入館者数		人	14,931	14,651	11,143	6,864	4,769

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
市民人口		人		120,018	119,348	118,450	117,706	116,983
企画展等入館者数		人		14,931	14,651	11,143	6,864	4,769

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

郷土の考古・歴史・民俗等について、展示を通して理解してもらう機会を作る。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
企画展等入館者数/市民人口		%		12.4	12.3	9.4	5.8	4.1

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件		件		17	19	15	10	13
博物館、化石館、伝承館の入館者数		人		51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	570	399	312	205	316			
	一般財源	千円	1,120	904	983	246	283			
	事業費計(A)	千円	1,690	1,303	1,295	451	599			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	50	報償金	30	報償金	80	報償金	0
			報償物資費	24	報償物資費	24	報償物資費	10	報償物資費	14
消耗品費			76	消耗品費	60	消耗品費	61	消耗品費	61	
印刷製本費			1,033	印刷製本費	709	印刷製本費	739	印刷製本費	68	
役員費			172	役員費	171	役員費	169	役員費	214	
作成委託料			335	作成委託料	309	作成委託料	236	作成委託料	94	
総計										
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2			
	のべ業務時間	時間	480	480	480	480	480			
	人件費計(B)	千円	1,832	1,834	1,831	1,746	1,745			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,522	3,137	3,126	2,197	2,344			

事務事業名	郷土博物館企画展等開設事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、広く愛郷心の育成に資するために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	近年、生涯学習への関心が高まり、市民の参加型生涯学習意欲の高揚が見られるが、緊縮財政の中で経費の削減等が求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	様々な種類の企画展に取り組んだ。秋の企画展は令和元年度に中止となった中根東里展を実施し、大きな反響を生んだ。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	郷土の考古・歴史・民俗等について、展示を通して地域の歴史・文化にふれる機会を与えることは、市民になどに地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への誇りと愛着心を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治の役割である。多くの人々に見学の機会を安価に提供し、郷土に誇りと愛着心を持つ人々を育成することは、市の責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	この事業は、博物館の主要な事業であり、市民文化の向上発展に寄与するものであるとともに、企画展等により佐野市の貴重な収蔵資料等を展示・公開して後世に伝え、地域に誇りと愛着心を持つ人々を育成することは、博物館の重要な役割である。対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	入館者数は、企画展のテーマ(内容)により増減するので、博物館資料等の調査・研究の成果発表の場である企画展のテーマを精選して、館独自のもの・特色のあるものを取り上げたり、利用者の興味・関心の高い企画展を開催したりすることで、入館者数を増やすことが可能である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	現状では、他からの借用をほとんどしない最低限の予算で企画展を開催し、図録を作成している。これ以上の削減は困難である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	企画展を開催する際には、周知するためのポスター・リーフレット作成やサイン作成など、印刷製本費や作成委託料の経費が多くなる。見学する際に、応分の負担(入館料を徴収)をしてもらうことは、適正なものと考えられる。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	企画展を廃止・休止すると常設展示室のみの展示となり、入館者の大幅な減少が予想される。この事業は、博物館の主要な事業であるため、休止・廃止できない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	

事務事業名		郷土博物館講座等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14850	一般	10	4	4	郷土博物館講座等開設事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例					
							事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業
								任意的事業・義務的事业		任意的事業	
								実施方法		直営	
								事業分類		講座・教室・イベント等開催事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長市政公約			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある各種講座を開催する。受講者は、広報誌等を通じて募集する。また、実技を伴う講座や講話を聴講して学習する講座などバラエティに富んだ博物館にふさわしい講座を開設する。 (講座の計画立案→講師の選定・依頼→受講者の募集→講座準備→講座の開催)		2講座開設 ・古文書入門講座 ・民話を楽しもう 6講座中止(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため) ・立体きりおりがみ ・まがたまをつくろう ・溶かしてピカピカ☆貝殻づくり ・田中正造に学ぶ ・展示解説ボランティア養成講座 ・石材の印作り						
		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		講座開催数	回	10	11	6	0	2
		受講者数	人	267	289	172	0	87

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民 受講者	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	市民人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
	受講者数	人	267	289	172	0	87

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	参加・体験型講座を通じて、郷土の考古・歴史・民俗等に対する理解と関心を高めてもらう。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		受講者/市民人口	%	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	50		33		20				6	
	一般財源	千円	143		55		38		0		24	
	事業費計(A)	千円	193		88		58		0		30	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	168	報償金	88	報償金	50	報償金	0	報償金	30
			消耗品費	22	消耗品費	0	消耗品費	8	消耗品費	0	消耗品費	0
傷害保険料			3	傷害保険料	0	傷害保険料	0	傷害保険料	0	傷害保険料	0	
人件費	人	2		2		2		2		2		
のべ業務時間	時間	200		200		200		10		20		
人件費計(B)	千円	763		764		763		36		73		
トータルコスト(A)+(B)	千円	956		852		821		36		103		

事務事業名	郷土博物館講座等開設事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、生涯学習の場として子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある博物館活動を展開していくために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	生涯学習意欲の高揚に伴い、体験学習型講座が求められている。また、高齢化社会を迎え、生涯学習の必要性が益々増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	人気のある講座は受講の申し込みが殺到してすぐ定員を超えてしまうため、なかなか受講することができない。そのため、講座の回数を増やして欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	郷土の考古・歴史・民俗等について、講座を通して地域の歴史・文化にふれる機会を与えることは、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としている佐野市立博物館条例の趣旨に従うものであり、合致している。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治体の役割である。講座等への参加機会を安価に提供することは、公共の施設でなければ難しい。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	これまで、「郷土史入門講座」や「田中正造に学ぶ」など博物館講座として既に定着しているものの他に、新しい講座を開設したり、バラエティに富んだ講師の選任に努める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	講座の見直しを行っており、これ以上の削減の余地はない。また、愛好会会員(ボランティア)の協力を得ながら、必要最小限の人数で効率的に事業を行っている。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	講座を開催する際、実技を伴うものには材料費などの経費がかかる場合もあるので、受講者から応分の負担を徴収している。受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	本事業は、博物館の主要な事業であるため、休止も廃止も出来ない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																						
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																							
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																								
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○	×																				
	低下		×	×																				

事務事業名		郷土博物館学校利用推進事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14849	一般	10	4	4	郷土博物館学校利用推進事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H2年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例					
						事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
								任意的事業・義務的事業		任意的事業	
								実施方法		直営	
								事業分類		教育・指導事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長市政公約			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
市内小学3・4・6年生の社会科授業補助の一環として、学習進度にあった適切な時期に博物館資料の見学や体験学習を通して、児童が歴史に関する知識の習得・佐野市に対する郷土愛を育むための援助指導を行う。 当館職員の他、展示解説ボランティアの協力を得ながら、展示資料解説・体験学習の指導を行う。		・市内小学6年生の「歴史学習」での博物館利用(5～6月) ※新型コロナウイルス感染防止のため中止。大規模校については出張事業で実施した。 ・市内小学4年生の「きょう土につくした人々」での博物館利用(10月～11月) ※ ・市内小学3年生の「くらしのうつりかわり」での博物館利用(1月～2月) ※ ※ 新型コロナウイルス感染防止のため、各学校へのお出張授業に切り替えて実施					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
市内小学校6年生の利用校数		校	26	26	26	2	21
市内小学生4年生の利用校数		校	26	26	17	21	21
市内小学生3年生の利用校数		校	26	26	26	0	20

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市内小学3・4・6年生の児童		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
来館児童数		人		2,892	2,840	2,680	983	2,716

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土を誇りに思い愛する意識をもたせる。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
利用学校数/市内学校数		%		100	100	88	37	98

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
博物館、化石館、伝承館の入館者数		人		51,401	52,391	39,845	21,273	24,976
歴史・文化資源に関するボランティア養成や活動等の件数		人		463	453	284	13	59

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	79		79		76		38		0	
	事業費計(A)	千円	79		79		76		38		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	79	消耗品費	79	消耗品費	76	消耗品費	38	消耗品費	0
	人件費	人	2		2		2		2		2	
のべ業務時間	時間	100		100		100		100		100		
人件費計(B)	千円	382		382		382		364		364		
トータルコスト(A)+(B)	千円	461		461		458		402		364		

B表(事後評価シート)

事務事業名	郷土博物館学校利用推進事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

## (3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	学校教育のよりよい援助活動ができるように平成元年度から準備を始め、平成2年度から開始した。その中で、県婦人教育連絡協議会(当時)佐野支部委員と市報を通じて公募に応募した女性たちによる「展示解説ボランティア」が結成され活動を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	学習指導要領にも謳われているが、児童の学習内容習得のために学校と博物館との協力体制がますます重要視されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	博物館において歴史資料を直接見たり、触れたり、体験したりすることができるため、学習効果が高まるとの意見を各学校の先生たちからいただいている。

## (4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、田中正造学習等については、出張授業を行った。

## 2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	小学生の時から佐野市の歴史について学ぶ場を提供することは、将来の「佐野市の歴史と伝統を理解した市民」を増やすことにつながり、結果として郷土への誇りと愛着心を育むことになる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	歴史資料を実際に見るといことは、小学生にとってとても貴重な体験である。子どもたちに公平で良質な学習体験の機会を提供し、郷土に誇りと愛着を持つ子どもたちを育成することは、市の責務である。本事業は公共関与が妥当である。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	学習進度にあった適切な時期に博物館見学を行うことで、児童が佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土愛を育むことにつながる。子どもたちに公平に学習体験の機会を提供するために、市内全小学校3・4・6年生を対象にすることは妥当である。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	児童への解説内容・方法を工夫してわかりやすくするなど、改善の余地はある。また、解説ボランティアの方々が高齢化しているため、ボランティア養成講座を開催し、新しくボランティアを募集する必要がある。また、臨時休館等で学校が博物館に来れない場合は、出前授業を検討する。
効率性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費に関しては、体験学習に必要な消耗品費のみのため削減することはできない。実際のところ、今の予算では、消耗品費が不足している。さらに人件費においても、ボランティアの方々の協力も得て、対応している状態であり、削減は難しい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	義務教育と関連のある事業であり、教育課程に基づく活動に対する入館料の減免は、社会的に当然視されている。受益者負担を求める必要はない。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	学習指導要領において児童の学習内容が変更になればこの事業は休止になる。		

## 3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 臨時休館等で学校が博物館へ来れない場合、出張授業を検討する。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		日本博物館協会参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14845	一般	10	4	4	日本博物館協会参画事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
							任意の事業・義務的の事業	任意の事業			
							実施方法	直営			
							事業分類	参画事業			
							リーディングプロジェクト	該当なし			
							市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)				
日本博物館協会の会員として、負担金を支出している。協会主催の会議・研究会等に参加し、機関誌や報告書等を収集することで、博物館活動・動向に関する情報の収集や交換を行っている。 ※日本博物館協会とは、青少年及び成人による生涯学習の進展を図るため、博物館振興のための調査・研究開発並びに指導・助言を行い、我が国の文化の発展に寄与することを目的として、およそ全国約4,000館を会員として活動している団体である。		(市の活動) 日本博物館協会に負担金(30千円)を支出し、機関誌等を収集する。 (日本博物館協会の活動) 全国大会・全国博物館長会議・指導者研究協議会・講演会等を開催し、『博物館研究』や『全国職員録』等を発行し、会員に提供している。				
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
機関誌収集数	部	12	12	12	12	12
会議・研究会参加数	回	0	0	0	0	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

郷土博物館職員 (参画対象団体) 日本博物館協会	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	対象職員数	人	4	4	4	3	3

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	①館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。 ②関係博物館との連携・協力の緊密化を図る。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		参画で情報を集められた対象職員割合	%	100	100	100	100	100
		参画の意義を認める対象職員割合	%	100	100	100	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	35		35		35		35		30	
	事業費計(A)	千円	35		35		35		35		30	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	35	負担金	35	負担金	35	負担金	35	負担金	30
	人件費	人	2		2		2		2		2	
のべ業務時間	時間	10		10		10		10		10		
人件費計(B)	千円	38		38		38		36		36		
トータルコスト(A)+(B)	千円	73		73		73		71		66		

事務事業名	日本博物館協会参画事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館の開設準備中に、他館の活動状況や最新情報を収集し、館の運営に活用するために団体に入会したことから開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	指定管理者制度や独立行政法人制度が導入可能となり、博物館の運営形態が多様化している。また、国や地方公共団体の緊縮財政により、博物館や美術館等の弱体化が進み、苦しい運営環境に苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	情報交換の場や機会を利用し、他の博物館との相互連携や事業協力を通じて、博物館の資料調査・研究等の振興を図ることで、住民の教育・文化水準の向上につながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	博物館・美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。博物館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	機関誌や報告書等を購読することで、他館の活動状況や最新情報を収集できる。講演会・研究会等参加することで、調査研究や特別展示の着想や歴史・文化資料の調査・研究等の支援が期待できる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	講演会や研究会は、遠隔地での開催や2日以上以上の日程のものもあるが、緊縮財政の下、職員配置や予算要求が抑制されているので、参加することが難しい。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	郷土博物館が加盟する団体の負担金の他に事業費がないので、事業費を削減する余地はない。人件費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	団体の加盟館は、団体が主催する研修会に参加する機会が得られ、また全国の加盟博物館の平常展を無料で見学できるなどの特典を受けられるため、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
加盟団体から脱退すれば事業は終了となるが、団体に加盟することで、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得ることが可能となり、当館の運営に役立つので、休止も廃止も出来ない。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)  																									

事務事業名		栃木県博物館協会参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14847	一般	10	4	4	栃木県博物館協会参画事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例					
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		直営			
						事業分類		参画事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)				
栃木県博物館協会の会員として、負担金を支出している。また協会主催の会議・研究会等に参加し、機関誌や報告書等を収集することで、博物館活動・動向に関する情報の収集や交換を行っている。 ※栃木県博物館協会とは、県内の博物館等及びその関係者の連絡協調を図り、博物館事業の進展に寄与することを目的として、栃木県内にある博物館及び同施設等と賛助会員から構成されている団体である。		(市の活動) ・栃木県博物館協会に負担金(5千円)を支出。 博物館文化財セミナー、会議等出席 (団体の活動) ・総会・研究会・講演会・視察研修会を開催し、機関誌を発行している。				
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
機関誌収集数	部	1	1	1	1	1
会議・研究会参加数	回	0	0	0	0	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

郷土博物館職員 (参画対象団体) 栃木県博物館協会	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	対象職員数	人	4	4	4	3	3

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	①館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。 ②教育普及活動及び展示等に関する技術の向上を図る。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
		参画で情報を集められた対象職員割合	%	100	100	100	100	100
		参画に意義を認める対象職員割合	%	100	100	100	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	5	5	5	5	5	
	事業費計(A)	千円	5	5	5	5	5	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	5	負担金	5	負担金	5
	人件費	人	2	2	2	2	2	
のべ業務時間	時間	20	20	20	20	20		
人件費計(B)	千円	76	76	76	73	73		
トータルコスト(A)+(B)	千円	81	81	81	78	78		

事務事業名	栃木県博物館協会参画事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館の開設準備中に、他館の活動状況や最新情報を収集し、館の運営に活用するために団体に入会したことから開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	指定管理者制度や独立行政法人制度が導入可能となり、博物館の運営形態が多様化している。また、国や地方公共団体の緊縮財政により、博物館や美術館等の弱体化が進み、苦しい運営環境に苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	情報交換の場や機会を利用し、他の博物館との相互連携や事業協力を通じて、博物館の資料調査・研究等の振興を図ることで、市民の教育・文化水準の向上につながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	博物館・美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。博物館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	機関誌や報告書等を得ることで、他館の活動状況や最新情報を収集できる。また、それらの情報を博物館の運営に反映することによって、市民の教育・文化水準の向上につながるため、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	職員数が少ないため、当館の事業実施と研修会等の日程が重なったりして、中々参加することが出来ないが、県内関係各館との情報交換や学芸員のスキルアップを図るためにも、参加出来るように努める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	郷土博物館が加盟する団体の負担金の他に事業費がないので、事業費を削減する余地はない。人件費も同様である。
	削減の余地はない		
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	団体の加盟館は、団体が主催する研修会や視察研修に参加する機会を平等に得られるため、受益者負担は適正である。
	受益者負担を求める必要がない		
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	加盟団体から脱退すれば事業は終了となるが、団体に加盟することで、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得ることが可能となり、当館の運営に役立つので、休止も廃止も出来ない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																						
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																							
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																								
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○	×																				
	低下		×	×																				

事務事業名		郷土資料保存三好館維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14856	一般	10	4	4	郷土資料保存三好館維持管理事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H16年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例					
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		直営			
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
郷土資料保存三好館の施設や設備を維持管理して、利用者に良好な環境を提供する。 施設・設備の維持管理に係る消耗品購入、施設の修繕、除草・植栽剪定、消防設備・尿管浄化槽等の保守点検委託等		<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の維持管理に係る消耗品の購入、光熱水費の支払</li> <li>火災保険に加入</li> <li>消防設備、尿管浄化槽の保守点検業務の委託(年間)</li> <li>植栽剪定</li> </ul>					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
管理・保守点検件数		件	2	3	2	2	2
修繕件数		件	1	3	0	0	1

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

入館者 施設・設備 収蔵資料	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	入館者数	人	76	74	63	42	50
	修繕必要箇所	箇所	1	3	0	0	0

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

入館者 施設・設備 収蔵資料	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	良好に保存された展示品の割合	%	100	100	100	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)		
	国庫支出金	千円											
	県支出金	千円											
	地方債	千円											
	その他	千円											
	一般財源	千円	208		303		196		238		200		
	事業費計(A)	千円	208		303		196		238		200		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
			消耗品費	9	消耗品費	0	消耗品費	1	消耗品費	0	消耗品費	0	
			燃料費	0	燃料費	0	燃料費	0	燃料費	0	燃料費	0	
光熱水費			57	光熱水費	57	光熱水費	60	光熱水費	58	光熱水費	55		
修繕料			10	修繕料	65	修繕料	0	修繕料	0	修繕料	9		
火災保険料			16	火災保険料	17	火災保険料	17	火災保険料	17	火災保険料	18		
管理委託料			76	管理委託料	124	管理委託料	78	管理委託料	122	管理委託料	78		
保守委託料			40	保守委託料	40	保守委託料	40	保守委託料	41	保守委託料	40		
正規職員従事人数			人	2		2		2		2		2	
のべ業務時間			時間	120		120		120		120		120	
人件費計(B)	千円	458		459		458		436		436			
トータルコスト(A)+(B)	千円	666		762		654		674		636			

事務事業名	郷土資料保存三好館維持管理事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-----------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼町が設置した郷土資料保存三好館を、平成17年の合併時に引継ぎ、郷土博物館の別館として位置づけられたことに始まる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	企業利益の低迷や自治体の財政難に伴い、私立・公立の博物館とも経営合理化が求められ、休館・閉館の事例も見られる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	施設や設備を維持管理して、利用者に良好な環境を提供し、郷土の歴史に触れる機会を与えることは、市民の学術・文化水準の向上や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	三好館を管理運営することは、教育普及の支援施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割も持ち、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)に適うため。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	施設や設備を整備して、展示・収蔵資料の最適環境を保ち、利用者に良好な環境を提供することがこの事業の目的であり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	旧田沼町立三好小学校の校舎を移転・整備し、地元町内から収集した郷土資料を常設で展示・保存しており、展示・公開方法などに向上余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	三好館を維持管理するための最低限の必要経費・人件費であり、削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	博物館法では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持管理のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。」と規定されている。三好館は常設展のみのため、受益者負担はそぐわない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土資料保存三好館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14857	一般	10	4	4	郷土資料保存三好館運営事業					
事業計画	事業期間		H16年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例					
						事業区分		市単独事業・国県補助事業			市単独事業
								任意的事業・義務的事業			任意的事業
							実施方法		直営		
							事業分類		施設維持管理事業(市以外が主体)		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
							市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
指定文化財である郷土資料保存三好館を活用し、地域の協力を得て、展示見学の利便を図る。受付や展示見学の案内等の開館業務を三好地区町会長に委託し、地元住民(ボランティア)が交替で管理を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>管理運営業務を三好地区町会長に委託</li> <li>戸室・船越・岩崎地区のボランティア6人が交代で開館業務を行う。</li> <li>定時開館: 毎月第2・第4日曜日(8月・9月は、新型コロナウイルスの影響で休館)</li> </ul>					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
開館日数		日	24	24	22	17	20
ボランティアの延活動者数		人	48	48	44	34	40

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

① 入館者 ② 地元自治会(ボランティア)		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
入館者			人	75	74	63	42	50
ボランティアの延活動者数			人	48	48	44	34	40

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 地元自治会との協働により、三好館の管理運営を行い、見学者の利便を図る。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
入館者/見学希望者			%	100	100	100	100	100
開館日数/定時開催日数			%	100	100	92	71	83

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

歴史・文化資源を継承し、郷土を育む人材を養成する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
歴史・文化資源に関するボランティア養成や活動等の件数			人	463	453	284	13	59

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	187		191		176		137		160	
	事業費計(A)	千円	187		191		176		137		160	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			管理委託料	187	管理委託料	191	管理委託料	176	管理委託料	137	管理委託料	160
	人件費	人	2		2		2		2		2	
のべ業務時間	時間	240		240		240		240		240		
人件費計(B)	千円	916		917		916		873		873		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,103		1,108		1,092		1,010		1,033		

事務事業名	郷土資料保存三好館運営事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼町が設置した郷土資料保存三好館を、平成17年の合併時に引継ぎ、郷土博物館の別館として位置づけたことに始まる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	合併時と比べて、管理運営を委託している地元自治会のボランティアの確保が難しくなっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	三好館は、郷土の歴史、民俗等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚及び文化の振興を図ることを目的として開設されたものであるため、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	三好館を管理運営することは、教育普及の支援施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割を持ち、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)に適うものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	三好館は、旧三好小学校の校舎を移転・整備したもので、明治期の学校建築・施設を知る上で大変貴重な建造物であり、地域との協働により保護活用していくことに地元も協力的である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	三好館の常設展示は、その設立目的から固定的なものであり、展示・公開方法などに向上余地は少ない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	現在の委託金額は法で定める最低賃金程度であり、削減することはできない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	博物館法では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持管理のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。」と規定されている。三好館は常設展のみのため、受益者負担はそぐわない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	市指定建造物であり非公開にすることはできない。しかし、現在、三好地区町会長に委託して管理運営をしているが、今後の公開方法等は検討する必要がある。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
低下		×	×																				
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)  																							

事務事業名		田中正造未公開書簡編纂事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
事業計画	事業期間		H25年度～		根拠法令 条例等	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業
								任意的事業・義務的事業		任意的事業
								実施方法		直営
								事業分類		その他内部事務事業
								リーディングプロジェクト		該当なし
								市長市政公約		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
田中正造翁没後百年顕彰事業の一環として、田中正造の行動と思想を後世に伝えるため、継続して新発見や未公開の田中正造書簡等の資料収集と調査を行う。		未公開書簡等の調査 ・博物館購入資料… なし ・博物館寄贈資料… なし					
活動指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
田中正造未公開書簡等の資料数		点	0	4	87	3	0

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

正造関係博物館収蔵資料		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		正造関係博物館収蔵資料	点	14,197	14,202	14,289	14,292	14,292

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 正造ゆかりの博物館として、正造関係の未公開書簡等資料を継続的に調査し、正造の思想、行動を探究する。		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		正造関係博物館収蔵資料	点	14,197	14,202	14,289	14,292	14,292

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15	10	13
		博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845	21,273	24,976

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円										
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人	2		2		2		2		2	
のべ業務時間	時間	30		30		30		30		30		
人件費計(B)	千円	114		115		114		109		109		
トータルコスト(A)+(B)	千円	114		115		114		109		109		

事務事業名	田中正造未公開書簡編纂事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成20年3月に岩波書店から発行された『田中正造 未発表書簡集』以降の未公開書簡について、いくつか発見されているものがあるため、没後百年顕彰事業の一環として今後も調査を行い、博物館においてまとめたものを刊行することで、正造の偉業を顕彰する。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	東日本大震災等による原発問題や環境問題への関心が高まっているとともに、没後百年を契機として、正造翁の偉業を顕彰する重要性が深まってきているため、正造関係の未公開書簡等をまとめ刊行することは、顕彰事業を行ううえで重要となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	広報さの、新聞等で正造関係資料について呼びかけたところ、少なからず情報提供が実際に来ている。また、この事業は、市民、市議会議員等で構成する田中正造翁没後百年顕彰事業実行委員会で、承認を受けた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	広報さの、新聞等で正造関係資料について呼びかけたところ、少なからず情報提供が実際に来ている。また、この事業は、市民、市議会議員等で構成する田中正造翁没後百年顕彰事業実行委員会で、承認を受けた。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	正造翁の偉業を永く後世に伝えるためには、正造ゆかりの博物館として、市が中心となって調査を行う必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	郷土博物館は、田中正造ゆかりの博物館として従来から正造の顕彰を図っており、没後百年を契機として田中正造の貴重な資料を調査し、後世に伝えることは、地域に誇りと愛着を持つ人々を育成にも繋がるため、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	正造関係未公開書簡等を積極的に収集し、調査・研究することにより、正造翁の偉業を広めることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	予算が認められなかったが、今後も最小の予算で刊行できるよう調査と資料収集に努める。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	現在は受益者負担はないが、編纂終了後は博物館において有償頒布する予定のため、刊行にあたっては適正な受益者負担を求める必要がある。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
顕彰事業の目的である「正造翁の偉業を広め、永く後世に伝える」ためには、継続的に資料収集を行う必要がある。田中正造関係資料購入事業とともに調査内容を取りまとめ刊行できれば、一定の成果として事業終了となる。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
低下		×	×																				
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																							

事務事業名		葛生化石館維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生化石館		担当課長名	船渡川貴史
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業			継続事業	
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業			一般事業	
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14833	一般	10	4	4	葛生化石館維持管理事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例					
				事業区分	市単独事業・国県補助事業			市単独事業			
				事業区分	任意的事業・義務的事業			任意的事業			
			事業区分	実施方法			直営				
			事業区分	事業分類			施設維持管理事業(市主体)				
			事業区分	リーディングプロジェクト			該当なし				
			事業区分	市長市政公約							

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
葛生化石館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に化石館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。 ・展示室照明器具類維持 ・常設展示動産保険の加入 ・展示室くん蒸及び環境調査業務委託 ・空調及び換気設備保守点検業務の委託 ・化石館所有車を維持管理する。	・照明器具等の維持管理のための消耗品の購入 ・常設展示動産保険の加入 ・年1回のくん蒸実施(6月26日～29日密閉くん蒸による収蔵資料等の殺虫、殺卵及び殺カビ) ・展示室空調機器の保守点検(年2回)の実施。 ・公用車の車検					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
業務委託件数	件	2	2	2	2	2
保守点検件数	回	2	2	2	2	2

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

化石館の施設・設備 収蔵資料 市民及び市外からの入館者	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
施設面積	㎡	571	778	778	778	778	778
入館者数	人	22,321	23,955	18,009	9,045	11,787	
収蔵資料数	点	1,998	2,033	2,075	2,105	2,149	

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

施設・収蔵資料の良好な維持管理を図る。入館者が不都合なく安全に利用する。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
施設トラブル件数	件	0	0	0	0	0	0
適切な収蔵件数/収蔵資料総数	%	100	100	100	100	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)				
	国庫支出金	千円									
	県支出金	千円									
	地方債	千円									
	その他	千円									
	一般財源	千円	1,716	2,203	1,463	1,568	2,355				
	事業費計(A)	千円	1,716	2,203	1,463	1,568	2,355				
事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費		
		消耗品費、燃料費	181	消耗品費、燃料費	243	消耗品費、燃料費	204	消耗品費、燃料費	79	消耗品費、燃料費	104
		修繕費	590	修繕費	609	修繕費	155	修繕費	380	修繕費	82
		手数料	25	手数料	0	手数料	11	手数料	0	手数料	11
		自動車保険料	47	自動車保険料	20	自動車保険料	46	自動車保険料	20	自動車保険料	40
		損害保険料	99	損害・賠償責任保険料	104	損害・賠償責任保険料	104	損害・賠償責任保険料	99	損害・賠償責任保険料	99
		委託料	740	委託料	797	委託料	909	委託料	990	委託料	1,984
		公課費	34	公課費	0	公課費	34	公課費	0	公課費	34
				備品購入費	430						
		人件費	人	2	人	2	人	2	人	2	
		のべ業務時間	時間	600	のべ業務時間	600	のべ業務時間	600	のべ業務時間	600	
人件費計(B)	千円	2,290	人件費計(B)	2,293	人件費計(B)	2,289	人件費計(B)	2,182	人件費計(B)	2,182	
トータルコスト(A)+(B)	千円	4,006	トータルコスト(A)+(B)	4,496	トータルコスト(A)+(B)	3,752	トータルコスト(A)+(B)	3,750	トータルコスト(A)+(B)	4,537	

事務事業名	葛生化石館維持管理事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	-------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが、平成14年に改装し、化石資源(葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など)を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年度に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。また当館は収蔵庫が少なく、資料の寄贈等が年々増加するため苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ館の存在を知られていないので、PRすべきであるという声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	社会教育の場である施設の維持管理を図ることで、利用者に良好な環境を提供し、また収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図ることで、地域の歴史や伝統・産業を知り、郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	市民に対して、地元石灰産業への理解を促す使命は大きい。本施設は、化石資源の有効活用や葛生動物群、化石に特化した数少ない施設であり、教育施設として市が維持管理を行うべきものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	利用者に対し、施設や収蔵資料を良好な状態で維持管理することは当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	施設や資料の点検、温度・湿度管理を定期的に実施していくことで施設トラブル件数の減少を図る。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成21年度に館長が配置され職員が増えたが、平成22年度以降2名(館長兼務)となり、ぎりぎりの体制であり人件費削減の余地はない。事業費も年々施設の老朽化が進む中で減らすことは難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は、現在入館料が無料となっている。自然科学系博物館という特質上、入館者は子どもや青年層が非常に多い傾向がある。有料になった場合入館者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	化石館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名	葛生化石館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
	担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館	担当課長名	船渡川貴史	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	新規事業・継続事業		継続事業
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						実施計画事業・一般事業		一般事業
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存						市単独事業・国県補助事業		市単独事業
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						任意的事業・義務的事業		任意的事業
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14837	一般	10	4	4	葛生化石館運営事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例				
						実施方法		直営		
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
葛生化石館を運営していくための事業。 資料の管理、整理、学芸業務補助のため会計年度任用職員の任用を行っている。他に資料寄贈者などへの謝礼、事務用経費、ボランティア活動、展示用パネルや標本作製などを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計年度任用職員による標本管理、事務補助</li> <li>・ボランティアによる事業・講座補助、勉強会、調査研究</li> <li>新型コロナウイルスの影響により全体的な活動を休止した。(休止期間 8、9月、12月～2月)</li> <li>・パソコン及び周辺機器、デジタルフルカラー複合機等の借上げ、各種事務用消耗品購入</li> <li>・8月8日～9月30日まで新型コロナウイルスの影響により休館した。</li> </ul>					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
収蔵資料数	点	1,998	2,033	2,075	2,105	2,149
入館者数	人	22,321	23,955	18,009	9,045	11,787

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者 展示資料(常設展)	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982	
展示資料数	点	635	635	635	635	635	

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。 入館者に利用しやすい環境を整える。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
入館者数/市の人口	%	18.6	20.1	15.2	7.7	10.1	
広報紙、情報誌等掲載回数	回	47	43	50	27	41	

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	57		80		40		35		28	
	一般財源	千円	2,927		2,756		2,589		3,137		3,422	
	事業費計(A)	千円	2,984		2,836		2,629		3,172		3,450	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			臨時嘱託員費	2,089	臨時嘱託員費	2,093	臨時嘱託員費	2,054	臨時嘱託員費	2,714	会計年度任用職員	2,708
			報償費	13	報償費	9	報償費	5	報償費	2	報償費	3
旅費			18	旅費	37	需用費	176	旅費	0	旅費	0	
需用費			293	需用費	202	役務費	86	需用費	155	需用費	124	
役務費			46	役務費	97	委託料	169	役務費	79	役務費	101	
委託料			302	委託料	168	使用料及び賃借料	139	委託料	137	委託料	101	
使用料及び賃借料			223	使用料及び賃借料	230	使用料及び賃借料	85	使用料及び賃借料	85	使用料及び賃借料	413	
備品購入費			0	備品購入費	0							
正規職員従事人数			人	2		2		2		2		2
のべ業務時間	時間	2,124		2,060		2,060		2,060		2,060		
人件費計(B)	千円	8,105		7,871		7,859		7,492		7,490		
トータルコスト(A)+(B)	千円	11,089		10,707		10,488		10,664		10,940		

事務事業名	葛生化石館運営事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	-----------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが、平成14年に改装し、化石資源(葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など)を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。開設当初からボランティアが事業に協力している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。初めての来館者から、思ったより内容が素晴らしいので驚いた。楽しかった等好評を得ている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市民や利用者の利便を図り、他の博物館・研究機関との連携を図ることで、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上(博物館法が目指す目的)や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	郷土の自然・歴史・産業等に関する資料を収集・保管・調査・研究及び展示して、教育的配慮のもとに市民一般の利用に供することは、当然市が行うべき事業と考える。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	市民や利用者の利便を図り、博物館・研究機関との連携を図ることは、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上や博物館資料の蓄積につながる。ただし今後、資料の収集、寄贈の基準を整備する必要がある。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	入館者数は近年若干の増加傾向にあったが、今年度は新型コロナウイルスの影響で激減した。市民に対しての周知が十分であるとは言えないので、更に市民及び小中学校等に周知する。また市外から当館のホームページを検索する利用者も多いため、こまめなホームページ更新を心がけ観光客の入り込みを図る。
効率性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成21年度は館長が配置され職員が増えたが、平成22年度以降2名(館長は兼務)となり、ぎりぎりの体制であり人件費削減の余地はない。事業費も博物館施設として機能を適正に運営させるには減らすことは難しい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は、現在入館料が無料となっている。自然科学系博物館という特質上、入館者は子どもや青年層が非常に多い傾向がある。有料になった場合入館者が激減することが予想される。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	化石館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生化石館企画展等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生化石館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14838	一般	10	4	4	葛生化石館企画展等開設事業					
	事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令等	博物館法、佐野市博物館条例			
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
					任意的事業・義務的事業		任意的事業				
						実施方法		直営			
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
	常設の展示とは別に、企画展を年数回実施する。 これはテーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激するため、保管する膨大な収蔵品や他館の資料を借用して行う。 さらに企画展の関連講座を夏頃実施する。						
	・企画展『日本の石灰岩と化石展～旅する石灰岩の物語～』7月17日(土)～令和4年1月30日(日)〔116日間〕 新型コロナウイルス感染症の影響で会期を変更。当初は、11月23日(火)までの予定 ・企画展『第16回新着標本展』令和4年2月11日(金)～3月31日(木)〔40日間〕 新型コロナウイルス感染症の影響で会期を変更。当初は、1月15日(土)からの予定 ・企画展関連講座 講演会は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため8月8日～9月30日まで休館。						
	活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	開催期間入館者数	人	14,391	19,936	11,950	7,094	9,916
企画展開催数	回	3	3	2	3	2	
講演会参加者数	人	92	41	0	0	0	

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

目的	市民及び市外からの入館者						
	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
	開催期間入館者数	人	14,391	19,936	11,950	7,094	9,916
	来館者数	人	22,321	23,955	18,009	9,045	11,787

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。						
	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	開催期間入館者数/市民数	%	9.6	16.7	10.0	6.0	8.5
	期間中入館者前年度比	%	65.8	138.5	59.9	59.4	139.8
	満足度	%	92.9	92.2	92.8	-	93.2

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

目的	市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。						
	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	55		133		89		99		91	
	事業費計(A)	千円	55		133		89		99		91	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	30	報償費	32	報償費	0	報償費	0	報償費	0
			旅費	0	旅費	0	旅費	0	旅費	0	旅費	0
			需用費	16	需用費	39	需用費	6	需用費	36	需用費	24
			動産保険料	5	動産保険料	5	動産保険料	16	動産保険料	13	動産保険料	9
			有料道路使用料	4	作成委託料	50	作成委託料	63	作成委託料	50	作成委託料	50
					有料道路使用料	7	有料道路使用料	4	有料道路使用料	0	有料道路使用料	9
	正規職員従事人数	人	2		2		2		2		2	
のべ業務時間	時間	2,124		2,060		2,060		2,060		2,060		
人件費計(B)	千円	8,105		7,871		7,859		7,492		7,490		
トータルコスト(A)+(B)	千円	8,160		8,004		7,948		7,591		7,581		

事務事業名	葛生化石館企画展等開設事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	---------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが、平成14年に改装し、化石資源(葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など)を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。また、企画展関連の講演会の開催を楽しみにしているとの声も有る。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	地域の化石・鉱物等の展示を通し、自然科学の理解を深めることで、市民に地域の歴史や伝統・産業を知ってもらい、郷土への愛着を育むことにつながり妥当である。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	郷土の自然・歴史・産業等に関する資料を収集・保管・調査・研究及び展示して、教育的配慮のもとに市民一般の利用に供することは、当然市が行うべき事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	今年度も新型コロナウイルスの影響で入館者数は激減したままだが、近年は若干の増加傾向にあった。しかし、市民に対して周知が十分であるとは言えないので、更に市民及び小中学校等に周知をする。また、市外から当館のホームページを検索する利用者も多いため、こまめなホームページ更新を心がけ観光客の入り込みを図る。より一層、PR等を工夫し周知を図る必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成21年度は館長が配置され職員が増えたが、平成22年度以降2名(館長は兼務)となり、ぎりぎりの体制であり人件費削減の余地はない。また事業費の計上がわずかであり、良質な企画展を開催するには不足しているが、学芸員の人脈を頼りに資料を借用し実施しているため、これ以上減らすことは難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は、現在入館料が無料となっている。自然科学系博物館という特質上、入館者は子どもや青年層が非常に多い傾向がある。有料になった場合入館者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	佐野市における化石、鉱物、地質に関する常設展示とともに、テーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激する企画展は、もっとも重要な博物館機能であり、化石館が開館している間は終了できない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		葛生化石館講座等開設事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	葛生化石館	担当課長名	船渡川貴史	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14839	一般	10	4	4	葛生化石館講座等開設事業				
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例		任意の事業・義務の事業	任意の事業
	実施方法						直営		施設維持管理事業(市主体)	
	事業分類						リーディングプロジェクト		該当なし	
市長市政公約										

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような体験講座等を企画開催する。 受講者は、広報・ホームページ等を通じて募集した。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施した。 材料費等が生じるものは参加者負担金を徴収した。	・地質の日記念事業「化石とあそぼう」(5/16)、化石の日記念事業「化石とまなぼう」(10/3) ・化石採集教室(8/11・11/23・3/21) ・ジオウォーキング(11/3) 上記、自主講座の中、化石の日記念事業、化石採集教室(8/1・3/21)は新型コロナウイルスの影響により中止 ・出張講座を実施。(9/15・16佐野高等学校附属中学校、10/19葛生小学校放課後子ども教室、12/7葛生南小学校放課後子ども教室)						
企画→参加者募集→事前準備→講座実施	活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	受講者数	人	532	409	420	281	267
	自主講座開設数	回	7	7	4	0	3
	出張講座	回				9	3

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民 受講者	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
	受講者数	人	532	409	420	281	267
	来館者数	人	22,321	23,955	18,009	9,045	11,787

③ 目的(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

市民の文化教養を高め、学習意欲の向上を目指す。より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	受講者数/市の人口	%	0.4	0.3	0.4	0.2	0.2
	受講者数前年対比	%	128.5	76.8	102.7	66.9	95.0
	参加して良かった/受講者数	%	94.3	97.0	98.8	-	98.5

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	123	102	74	1	23			
	一般財源	千円	0	0	26	15	34			
	事業費計(A)	千円	123	102	100	16	57			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			旅費	4	旅費	2	旅費	2	旅費	0
			消耗品費	114	消耗品費	94	消耗品費	95	消耗品費	16
傷害保険料			5	傷害保険料	6	傷害保険料	3	傷害保険料	0	
人件費	人	2	2	2	2	2				
のべ業務時間	時間	500	500	500	500	500				
人件費計(B)	千円	1,908	1,911	1,908	1,819	1,818				
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,031	2,013	2,008	1,835	1,875				

事務事業名	葛生化石館講座等開設事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成16年から専任の学芸員が配属になり、平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった頃から、講座を積極的に実施するようになった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、講座等の教育事業が開始した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	参加してよかった。楽しかった。今後も開催して欲しいという要望(アンケートやメール)が多数ある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 地域の化石・鉱物等に触れる体験を通し、自然科学の理解を深めることで、市民に地域の歴史や伝統・産業を知ってもらい郷土への愛着を育むことにつながり妥当である。
目的 妥当性 評価	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治体の役割である。講座等への参加機会を安価に提供することは、公共の施設でなければ難しい。また化石採集教室などは、市が行うという信頼により、化石産地や鉱山の立ち入りが許可されている。
目的 妥当性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 この事業は化石・鉱物等に触れる体験を通し、自然科学の理解を深めるものであり、市民の文化教養の向上、生涯学習の推進を目的としている。化石館の見学者も増えることになり、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 地質の日イベント、化石採集教室は人気が高いが、他の講座への参加は市民に対しての周知が十分とは言えず、今後参加者を増やせる余地は有ると考える。
有効性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 この事業は、必要な消耗品等が主なもので、委託せずに職員が企画から実施まですべてを行っているため、削減の余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 平成25年度より、講座参加者から参加者負担金を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	企画展と並び、市民に広く体験等学習してもらおう教育プログラムは、主要な博物館機能であり、化石館が開館している間は終了できない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		葛生伝承館維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生伝承館		担当課長名	船渡川貴史
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14827	一般	10	4	4	葛生伝承館維持管理事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H16年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例				
	任意の事業・義務の事業						任意の事業				
	実施方法						直営				
事業分類						施設維持管理事業(市主体)					
リーディングプロジェクト						該当なし					
市長市政公約											

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
葛生伝承館の施設を維持管理する。 ・光熱水費の支出 ・建物、設備等の修繕実施 ・建物の損害共済保険への加入 ・館内くん蒸の実施 ・清掃、警備の委託 ・空調設備保守点検業務の委託		・清掃、警備(長期)、空調設備、消防設備の保守点検 ・年1回のくん蒸実施(6月29日～7月2日に密閉くん蒸による収蔵資料等の殺虫、殺卵及び殺カビ) ・建物損害共済保険への加入 ・伝承館事務室空調更新工事					
活動指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
業務委託件数		件	4	4	4	5	5
保守点検回数		回	7	7	7	7	7
修繕件数		件	4	3	3	1	1

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

伝承館の施設・設備 収蔵資料 市民及び市外からの入館者		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
施設面積		㎡		323	323	323	323	323
入館者数		人		6,718	8,049	5,522	3,422	5,404
収蔵資料数		点		674	676	791	791	791

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

施設を安全で良好に維持管理する。 利用者が不都合なく安全に利用する。		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
施設が安全で良好に使われた割合		%		100.0	100	100	100	100

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%		91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	4,022		4,413		3,919		3,835		4,162	
	事業費計(A)	千円	4,022		4,413		3,919		3,835		4,162	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	1,627	需用費	1,301	需用費	1,367	需用費	1,157	需用費	1,276
			役務費	67	役務費	69	役務費	56	役務費	70	役務費	36
くん蒸委託料等			918	くん蒸委託料等	939	くん蒸委託料等	1,049	くん蒸委託料等	1,089	くん蒸委託料等	887	
清掃委託料			771	清掃委託料	800	清掃委託料	780	清掃委託料	846	清掃委託料	785	
警備委託料			382	警備委託料	382	警備委託料	386	警備委託料	389	警備委託料	389	
空調・消防設備委託料			257	空調・消防設備委託料	279	空調・消防設備委託料	281	空調・消防設備委託料	284	空調・消防設備委託料	284	
		備品購入費	643						工事維持補修費	505		
人件費	人	2		2		2		2		2		
のべ業務時間	時間	900		900		772		772		772		
人件費計(B)	千円	3,434		3,439		2,945		2,808		2,807		
トータルコスト(A)+(B)	千円	7,456		7,852		6,864		6,643		6,969		

事務事業名	葛生伝承館維持管理事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	-------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度から学芸員を配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。バリアフリーの建築であるが、収蔵庫が狭い施設である。開設後16年を経過し、施設や設備の修繕が増えてきた。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	館内がきちんと整理整頓されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	伝統・文化を伝える施設の良好な維持管理を図ることは、ひいては地域の歴史と伝統を知り、郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	伝承館を維持管理することで、学術・調査活動の拠点施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割を持つので、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)にかなうものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	利用者に対し、施設や収蔵資料を良好な状態で維持管理することは当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	館の施設点検は一日に何度も行っている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も施設・設備の維持管理のぎりぎりの予算であり削減できない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	当館は現在入館料が無料になっている。郷土芸能や民俗資料を展示している特質上、高齢者の入館が非常に多い。そのため有料になった場合、利用者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	理由・改善案	伝承館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名	葛生伝承館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
	担当組織	担当部	担当係	葛生伝承館	担当課	文化財課	担当課長名	船渡川貴史		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規事業・継続事業			継続事業	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				実施計画事業・一般事業			一般事業	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				市単独事業・国県補助事業			市単独事業	
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				任意的事業・義務的事業			任意的事業	
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14840	一般	10	4	4	葛生伝承館運営事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H16年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例				
							実施方法		直営	
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
葛生伝承館を運営していくための事業。 資料の収集整理、学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。他に収集資料の修繕や受付業務の委託、資料提供などへの謝礼、調査などにかかる旅費、事務用経費、展示品の修繕などを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計年度任用職員による事務補助、施設管理補助、受付業務補助</li> <li>・吉澤人形頭4体修繕</li> <li>・受付業務委託</li> <li>・パソコン及び周辺機器、デジタルフルカラー複合機借上げ、各種事務用消耗品購入</li> </ul>					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
入館者数	人	6,718	8,049	5,522	3,422	5,405
業務委託件数	件	2	2	2	2	2

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者 展示資料	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
	展示資料数	点	268	275	221	219	254

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 入館者に利用しやすい施設を整える。展示資料を見学することにより地域の伝統・文化を知ってもらう。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	入館者数/市の人口	%	5.6	6.7	4.7	2.9	4.6

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	5		5		5		7		7	
	一般財源	千円	5,563		5,583		5,883		6,298		6,405	
	事業費計(A)	千円	5,568		5,588		5,888		6,305		6,412	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			臨時嘱託員経費	2,088	臨時嘱託員経費	2,093	臨時嘱託員経費	2,054	臨時嘱託員経費	2,718	会計年度任用職員	2,703
			報償費	0	報償費	2	報償費	0	報償費	0	報償費	0
			旅費	0	旅費	0	旅費	0	旅費	0	旅費	0
			需用費	362	需用費	385	需用費	475	需用費	319	需用費	333
			通信運搬費	121	通信運搬費	118	通信運搬費	118	通信運搬費	115	通信運搬費	116
			受付業務委託料等	2,693	受付業務委託料等	2,814	受付業務委託料等	3,098	受付業務委託料等	3,030	受付業務委託料等	3,069
			事務機借上料等	244	事務機借上料等	176	事務機借上料等	143	事務機借上料等	123	事務機借上料等	192
備品購入費	61	備品購入費	0	備品購入費	0	備品購入費	0	備品購入費	0			
人件費	人	1		1		1		1		1		
のべ業務時間	時間	1,000		1,000		1,000		1,000		1,000		
人件費計(B)	千円	3,816		3,821		3,815		3,637		3,636		
トータルコスト(A)+(B)	千円	9,384		9,409		9,703		9,942		10,048		

事務事業名	葛生伝承館運営事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	-----------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度から学芸員を配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。バリアフリーの建築であることや展示物が郷土芸能など親しみやすいため、老人福祉施設の入館者が増えている。収蔵庫が狭いため寄贈、寄託の受け入れは困難である。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	案内が親切、身近にこのような施設が有り良いなどの声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	ホームページ等により、施設の更なるPRを行った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市民に伝統・文化を知ってもらうことは郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	郷土の伝統・文化に関する資料を収集、保護、研究することは、市が行う事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	市民や利用者の利便を図り、郷土芸能等の保存・調査活動を行うことで、市民の学術・文化水準の向上や資料の蓄積につながる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	創意工夫した周知方法の研究
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は現在入館料が無料になっている。郷土芸能や民俗資料を展示している特質上、高齢者の入館が非常に多い。そのため有料になった場合、利用者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	伝承館が開館している間は、施設の管理運営は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		葛生伝承館企画展等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生伝承館		担当課長名	船渡川貴史
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14841	一般	10	4	4	葛生伝承館企画展等開設事業					
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H16年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例				
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
							実施方法		直営		
							事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
							市長市政公約				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
県指定有形民俗文化財「吉澤人形頭」、県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」関連資料を中心に、佐野市に伝わる神楽・牧歌舞伎・節句人形などの伝統芸能や民俗資料を企画展で展示、紹介する。		・「雛人形展」4月1日(木)～4月7日(水) [6日間] ・「牧歌舞伎と吉澤人形頭展」4月20日(火)～6月20日(日) [53日間] ・「きもの展」7月10日(土)～10月17日(日) [85日間] 新型コロナウイルスの影響で会期を変更。 ・「祝い掛軸展」10月30日(土)～令和4年1月23日(日) [67日間] 新型コロナウイルスの影響で会期を短縮。 ・「雛人形展」2月4日(金)～3月31日(木) [47日間]					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
企画展開催期間入館者数		人	6,718	8,049	5,522	3,422	5,404
企画展開催期間日数		日	258	256	200	186	213

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
市の人口		人		120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
企画展開催期間入館者数		人		6,718	8,049	5,522	3,422	5,404

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

多くの優れた佐野市の文化や芸能に関する資料を集め、より多くの人に鑑賞してもらえるようにする。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
企画展開催期間入館者数/市の人口		%		5.6	6.7	4.7	2.9	4.6
入館者数前年対比		%		72.5	119.8	68.6	62.0	157.9
満足度		%		73.9	75.5	74.7	—	72.1

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%		91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	236		234		235		228		208	
	事業費計(A)	千円	236		234		235		228		208	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	78	消耗品費	76	消耗品費	77	消耗品費	73	消耗品費	53
			作成委託料	158	作成委託料	158	作成委託料	158	作成委託料	155	作成委託料	155
人件	正規職員従事人数	人	1		1		1		1		1	
	のべ業務時間	時間	300		300		300		300		300	
費	人件費計(B)	千円	1,145		1,146		1,145		1,091		1,091	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,381		1,380		1,380		1,319		1,299	

事務事業名	葛生伝承館企画展等開設事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	---------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。牧歌舞伎、吉澤人形頭だけではリピーターを呼ぶことは難しいので、新しい企画を取り入れていく必要がある。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	継続してさまざまな展示を行って欲しい、文楽や歌舞伎を見てみたいなどの市民の声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	市民に対し広報宣伝を積極的に行い、更なる周知を図った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市民に伝統・文化を知ってもらうことは郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	郷土の伝統・文化に関する資料を収集、保護、研究することは、市が行う事業と考えられる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	市民に対して周知が十分であるといえず、周知方法を工夫したい。また企画展の内容を充実させ、他の事業とのつながりを持たせていくことで、成果をさらに向上させることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は現在入館料が無料になっている。郷土芸能や民俗資料を展示している特質上、高齢者の入館が非常に多い。そのため有料になった場合、利用者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	所有する資料を中心に、テーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激する企画展は、もっとも重要な博物館機能であり、伝承館が開館している間は終了できない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生伝承館講座等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当	担当部	教育部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					組織	担当係	葛生伝承館	担当課長名	船渡川貴史
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14842	一般	10	4	4	葛生伝承館講座等開設事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例					
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		直営			
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような体験講座等を企画開催した。 受講者は、広報等を通じて募集した。また、材料費等は実費を負担金として徴収している。  講座の企画→参加者募集→講座の事前準備→講座実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの日民話語り(5月5日)</li> <li>・びゅんびゅんゴマを作ろう(8月)※</li> <li>・押絵羽子板づくり(11月)※</li> <li>・つるし飾りをつくってみよう(12月)※</li> </ul> ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
講座等開催数		回	6	4	5	1	1
受講者数		人	177	154	160	23	25

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

受講者 市民	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	受講者数	人	177	154	160	23	25
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450	117,706	116,982
	入館者数	人	6,718	8,049	5,522	3,422	5,405

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 郷土の関わりのある伝統・文化・芸能に対し、興味を持ってもらう。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	講座を面白いと感じた/アンケート回答者数	%	84.4	68.9	92.3	73.9	83.3

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	91.5	94.9

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	18		9		17		13			
	一般財源	千円	10		22		4		6		7	
	事業費計(A)	千円	28		31		21		19		7	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	0	報償費	5	報償費	0	報償費	0	報償費	0
			消耗品費	28	消耗品費	26	消耗品費	21	消耗品費	19	消耗品費	1
人件費	人	1		1		1		1		1		
のべ業務時間	時間	97		97		97		97		97		
人件費計(B)	千円	370		371		370		353		353		
トータルコスト(A)+(B)	千円	398		402		391		372		360		

事務事業名	葛生伝承館講座等開設事業	担当部	教育部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。館内は手狭なため講座は限られ、隣接の公民館を会場として、工夫しながら講座を開催している。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	子どもも楽しめるような体験型イベントを実施して欲しいとの意見がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	市民に対し広報宣伝を積極的に行い、更なる周知を図った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市民に伝統・文化を知ってもらうことは郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	郷土芸能の保存と伝承に寄与する施設として、市が開設したので、講座の開設も実施すべきである。ただし、内容によって市民講師などによる協働は可能である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	講座の内容の充実や、他の事業との連携により、成果を向上させる余地がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	講座参加者から参加者負担金を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	企画展と並び、市民に広く体験等学習してもらおう教育プログラムは、主要な博物館機能であり、伝承館が開館している間は終了できない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			